「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　実施結果

１　開催目的

令和９年度からの 10 年間を見据えたまちづくりの新たな指針となる「第三次佐久市総合計画」及び土地利用の基本指針である「第三次国土利用計画（佐久市計画）」について市民の皆さんからご意見をいただくため、住民説明会を開催。

２　実施概要

（１）開催日時・会場

・令和８年９月２６日（土）10：00～11：30　浅間会館　会議室１・２
・令和８年９月２８日（月）18：30～20：00　生涯学習センター　大会議室２
・令和８年９月２９日（火）18：30～20：00　浅科会館　会議室１・２
・令和８年９月３０日（水）18：30～20：00　駒の里ふれあいセンター　ホール
・令和８年１０月１日（木）18：30～20：00　あいとぴあ臼田　ホール

（２）参加者数

９名

（３）質疑応答の状況

ア　提出された意見

・第三次佐久市総合計画　２５件
・第三次国土利用計画（佐久市計画）　１件

イ　提出された意見とそれに対する市の考え方

・別紙のとおり

別紙

「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　提出された意見とそれに対する市の考え方

●第三次佐久市総合計画（素案）について

No.	日付	会場	意見	当日の回答	反映・対応状況
1	9/26(土)	浅間会館	概要版の２ページの項目にページを入れていただくと、興味のある項目を見ていけるのではないかと思う。	今後、配慮していきたい。	計画の本文におきましては、目次を設け、各項目にページ番号を記載しております。また、本文完成後に新たに作成する概要版につきましても、ご意見を踏まえ、各項目に対応するページ番号を記載するなど、関心のある項目をすぐにご覧いただけるよう工夫してまいります。
2	9/26(土)	浅間会館	平成の大合併の時、御代田の方と話をした。佐久市と合併しても良いが、御代田が端っこになってしまう。合併して何かよいことがあるのかと言われた。 横根から御代田に行く橋ができて交通量が多くなった。浅間会館前も午後５時頃になると渋滞する。平根保育園に出入りで渋滞している。都市計画の中で道路状況を踏まえ、大きい道を通すことが必要ではないかと思う。 大きな道を通し、渋滞をなくし、流れをつくらないと魅力あるまちはできない。市民新聞で高齢化について記載があった。岩村田商店街（岩村田本町）が57.7%、長土呂が17.2%。素案の中で、若い人に来てもらう、魅力あるまちづくりとあるが、高齢化の中で、人に来てもらうには大きな道を一本通したらどうかと思う。	合併時、御代田から佐久エリア、臼田までを一体感をもたせるために、東幹線という道の話題があった。御代田との合併の話はなくなったが、そのような地域をつなぐ道路ネットワークの考え方のもと、着実に道路改良など行っている。 道路の管理は、市だけでなく、県管理の道路もあるため、関係機関との連携を図りながら、また財源を確保しながら、今後も着実に進めていければと考えている。	施策「地域交通ネットワーク」の中で、地域間交通の渋滞緩和や利便性向上などを図るための地域幹線道路や生活道路の整備を掲げております。
3	9/28(月)	生涯学習センター	第二次総合計画では、「満足度」をベースにしてきたと思うが、今回は具体的な指標に変わっている。これまでとってきたアンケートによる満足度についてはどうするのか。	施策目標の設定に当たり、現行計画の進行管理を行なっている中で、審議会において、施策の満足度について毎年アンケートの回答者も変わってくる中で、それで果たして評価ができるのか、客観的に数値で測れるような指標にした方がよいという議論があったことから、今回の指標目標の設定についてはこのような形とした。 ただ、その指標だけではなく、引き続き満足度・重要度調査も行いながら、総合的に進行管理を行なっていきたいと考えている。	第三次佐久市総合計画におきましては、客観的に成果を測定できる数値目標（KPI）を施策ごとに設定するとともに、満足度・重要度調査については市民意識の傾向を把握するための参考指標として併用し、多角的な視点から施策の検証・評価を行なってまいります。
4	9/28(月)	生涯学習センター	アンケートの回答率について、中学生が高く、高校生になると半分くらいで一般の方と同じくらい。そこに関心を持てるかどうかが一番大事。例えば、住民説明会を開催するときにどんな人に参加してもらいたいのか、外で勉強している学生に声をかけるのも一つの手。いろいろな人たちの意見を聞くには、ホームページでの掲載だけではなく、様々な方法を取っていくことが必要だと思う。	アンケートの回答率については、やり方により変わってくる部分もあるが、市民アンケートについては、郵送し回答いただいている。中高生アンケートについては、学校にお願いし、可能な範囲で生徒の皆さんに回答いただいた形である。 説明会については、ホームページだけでなく、広報紙やＳＮＳでも周知しているところだが、参加者は少ない状況。アンケート、住民説明会、市民ワークショップなどいろいろな形で地域の皆様の声を聞くことを行なってきているが、これで良いということではなく、ご意見を踏まえ、今後も幅広くご意見をいただける手法を検討していきたい。 総合計画に限らず、市民協働をどうしていくか、どうやってあまねく意見を吸い上げていくか、市民のニーズに沿った施策を行なっていくか、そのためにどうやって人を集めていくのかが課題と考えている。	施策「市民協働・参加」の中で、意見の聴取に当たり、デジタルツールの活用と直接聴取の手法を効果的に組み合わせ、「多様な世代が自らのライフスタイルに合わせて市政に参画できる環境の拡充」や「幅広く意見を提出しやすい環境の充実」を掲げております。
5	9/28(月)	生涯学習センター	佐久市はすごく住みやすいまちだと思っている。例えば、観光は結果が出ないところがある。佐久市はこれだよとすごくアピールできるものがあればそれを推して集客はできるが、なかなかそういう部分が少ないが、住んでいる人はそのことは不満ではないと思う。 今の懸念は、まちがドーナツ化現象になっていること。 中込でも新しいお店が出てきているが、そこだけの整備ではダメだと思う。道路一つにしても歩道がひどい状況。そういった細かいところをチェックしながら行なっていく必要があると思う。今、メンテナンスの時代に入っていると思う。戦後80年、高度経済成長期から50年、いろんなところで維持・整備の時期にきている。第三次に関しても、新しいことは必要だが、いろんな面でメンテナンスが大事になってくる気がしている。大きな視野を持って、若い人たちが住みやすいまちづくりが必要だと思う。	ご意見として賜る。	施策「地域交通ネットワーク」の中で、「歩行者や自転車が安心・安全に道路を通行できるよう、歩道やガードレールの整備のほか、段差の解消などユニバーサルデザインに配慮した道路整備を推進します。」と掲げております。 また、施策「市街地」の中で、「都市政策において、公共空間の利活用の幅を広げ、居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指し、官民連携による賑わいや活気の創出を推進します。」と掲げております。
6	9/29(火)	浅科会館	昨今、こどもたちの意見を反映させるよう言われている。こどもたちの意見の吸い上げはどのように行ったのか。	中学生アンケートや高校生アンケートで、若者の声をお聞きし、基本理念や将来都市像の部分にも反映した。	ー

「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　提出された意見とそれに対する市の考え方

●第三次佐久市総合計画（素案）について

No.	日付	会場	意見	当日の回答	反映・対応状況
7	9/29(火)	浅科会館	国や県で行っているような、審議会にこども委員を設けることはしなかったか。	審議会に特別にこども枠を設けることはしなかった。 こども基本法が制定され、こどもの声を聞くことは必要であるため、今後もこどもたちの意見が反映できるよう心がけていきたい。	―
8	9/29(火)	浅科会館	ＫＰＩについて、満足度だけでは評価できない部分もある。審議会でも言われていると思うが、今回変えた部分はあるか。	現行計画では、施策満足度で評価を行なっているところだが、審議会において、同じ人が回答していない状況で推移を見て評価ができるのかといった意見をいただいた。 満足度だけで評価するのは難しいということもあり、今回については満足度調査を引き続き実施し参考指標とする中で、計画に載せる施策目標については、より具体的な数値目標を設定している。	第三次佐久市総合計画におきましては、客観的に成果を測定できる数値目標（KPI）を施策ごとに設定するとともに、満足度・重要度調査については市民意識の傾向を把握するための参考指標として併用し、多角的な視点から施策の検証・評価を行なってまいります。
9	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	住民説明会の意見はまとめてホームページに公表するとあったが、パブリックコメントと同様の扱いになるのか。	住民説明会でいただく意見と、パブリックコメントでの意見は同様に扱いをさせていただく。	―
10	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	情報公開のガイドラインでは、パブリックコメントで提出された意見に対しては、採用できるものとできないものに分けて、採用できるものはどこに採用したか、採用できないものはその理由を説明することとなっている。今まで見てきている中では、どうして採用しなかったのかについて説明があったことがないという認識。ここはガイドラインどおりにいくのか。	いただいたご意見について、反映できるものはこのように反映しましたなど、極力状況が分かる形で公表させていただきたいと思っている。	―
11	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	総合計画審議会は委員の任期が２年となっている。令和６年６月に任命されたメンバーが、令和７年から令和９年の２年となっているのはなぜか。	委員の任期については、２年間となっている。総合計画の策定の検討をしていただく年度については、人数を規程の最大の34名まで増員し検討していくこととしている。また、策定が終わり、進行管理については人数を絞って行っている。 令和６年度は進行管理のみで、少ない人数で行っていた。今回、令和７年度から２か年をかけて第三次総合計画を策定していくに当たり、委員の人数を増やすタイミングとなったため、任期に残りがあったが一旦区切り、34名に増やし、そこから改めて２年間の任期としている。	―
12	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	公募委員の指針では、２割以上となっている。名簿上、公募委員となっているのが、４名。 令和４年頃に、ジェンダーギャップの問題があって、市長が必要と認めたものとして、４名女性を登録した。令和６年のときには、市からお願いした４名が公募委員の状態となっており、実質的に公募されて委員がいない状態。これはどうしてか。公募するための努力はしたのか。公募のところも再募集しないと書いてある。集まろうが集まらなかろうがそういうスタンスなのか。市民の意見を聞くというスタンスでありながら、今の状態はまずいのではないか。 総合計画と行政改革は、市の行政側が評価を受ける立場にあるところ。これが、基本的に公募者を集めることができていないのではないか。そういう中で、計画を作ることが問題ではないか。	経過を確認して回答する。	審議会等の委員の公募に関する指針において、「公募する委員の数は、委員の定数又は総数の２割以上となることを原則として、審議会等の審議事項、専門性、委員構成の均衡等を考慮し、公募の趣旨が確保される妥当な範囲内で所管課等が決定する」こととされております。 公募の経過といたしまして、令和６年度につきましては、現行計画の進行管理のみを行うため、委員数を条例定数（34名）より少ない29名に設定し、指針の原則に基づき、６名を公募いたしました。応募のあった３名について、全員を公募委員として任命しております。 令和７年度につきましては、第三次総合計画の策定、また地方創生に関する総合戦略の一体的な策定に向け、連携体制（産官学金労言士）を構築するため、各分野の専門性を有する有識者７名を追加いたしました。なお、公募委員につきましては、令和７年度に追加予定であった５名分の２割に当たる１名を公募したところでございます。
13	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	市民アンケートを取ったときに、「どちらでもない」という回答が圧倒的に多い。自由記述が最後にあるが、何をやっているのか分からないから、満足とも不満とも言えないと記載した方が多くいる。さらに自由記述がないと自分の意見が言えないともあった。 ところが、昨年のアンケートでは、自由記述の欄がなくなっているが、それはなぜか。 回答率も落ちてしまっているため、アンケートの仕方に問題があったのではないかと思う。ここについては、市民の声を聞くために、改善の余地はあるのではないかと感じた。	昨年度のアンケートについては、進行管理という形で満足度と重要度を聞くものに加え、総合計画の策定に当たっての質問が増え、ボリュームが多くなってしまう状況であった。また、各政策において力を入れるべきことについて、自由に書ける欄なども設けていることもあり、除いた形となった。	今後、アンケートを実施する際の参考とさせていただきます。

「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　提出された意見とそれに対する市の考え方

●第三次佐久市総合計画（素案）について

No.	日付	会場	意見	当日の回答	反映・対応状況
14	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	若い人たちが内容を知らなくて満足度が高い、こういう施策をしていることに対して満足なのか、その施策によって効果が出たから満足なのかよく分からない。若い人たちは満足度が高い状況だが、十分理解して高い状態を出してくれているのか疑問。どちらにするか情報が少なくて判断できない、市が何をしているのかよく分からないから、しょうがなくどちらでもないを選ぶことが非常に多かったという認識。この辺りは、知らせる努力を各課でしていれば、もう少し違った答えが出るのか、まったく知らない人はどちらでもないをつけない形でのアンケートにするとか、アンケート自体を変えていかないと市民の意見が聞こえないのではないか。第二次から第三次を策定するに当たっての評価の中で、そこのところは問題にならなかったか。	新たな計画の策定に向けて、選択項目として「どちらでもない」という部分についての言及はなかった。 第三次の指標の設定として、第二次の進行管理を並行して行っていただく中で、満足度によって施策の評価をするのはどうなのかという意見があった。今回の施策目標としては、満足度による評価ではなく、各施策について個々の指標を立てて数値目標で管理していく方法にさせていただいた。一方で、満足度・重要度調査については、毎年実施をし経年で推移を見ている部分もあるので、選択肢を大きく変えないで行っていきたいというところもある。	第三次佐久市総合計画におきましては、客観的に成果を測定できる数値目標（KPI）を施策ごとに設定するとともに、満足度・重要度調査については市民意識の傾向を把握するための参考指標として併用し、多角的な視点から施策の検証・評価を行なってまいります。
15	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	重要度・満足度の評価グラフについて、全体の平均値を一律の基準線（十字）とすると、目標値を高く設定した施策において、実際には目標未達成であっても、平均より少し上にあるだけで達成しているように誤認される恐れがある。施策ごとの目標値に応じた評価方法や基準線の見直しを行わないのか。また、単に「事業を実施したか」だけでなく、目標に対する「成果・効果」を適切に評価したうえで計画策定に生かすべきではないか。	満足度の推移で施策を評価するのはどうなのかといった意見もあったため、新しい計画では施策目標を見直した。 重要度・満足度については、直接的な施策の評価指標とするのではなく、その時々において市民の皆様が何を重要視されているか、あるいはどの程度満足されているかといった意識の傾向を総合的に把握し、今後の施策を推進していく上での「参考指標」として活用していきたいと考えている。	第三次佐久市総合計画におきましては、客観的に成果を測定できる数値目標（KPI）を施策ごとに設定するとともに、満足度・重要度調査については市民意識の傾向を把握するための参考指標として併用し、多角的な視点から施策の検証・評価を行なってまいります。
16	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	審議会については、原則公開となっているが、委員の任命などセレモニー部分だけを公開していて、実際に審議しているところは公開していない。そもそもいつ開催するかを公表していない。審議会の傍聴のところにも写真撮影は禁止とあるが、映像を撮ってホームページに載せても良いと思う。普通のサラリーマンだと審議会の応募要件の中に「平日の昼間に会議に参加できる人」となっており、実際知りたくても分からない。議会は質問の回答もすべて公開されている。少なくても行政評価に関わるような機能を持った、総合計画審議会や行政改革推進委員会は完全公開でよいと思う。 ホームページで公開しているのは、確かに結果が出ているが、いつやるかについて部会レベルでは出ていない。	総合計画審議会については、事前に開催日時を公表し、プレスリリースも行っており、基本的には全ての議論を公開で実施している。 ご意見も踏まえ、部会の開催日時についてもお知らせさせていただく。	審議会等の開催予定につきましては、佐久市ホームページの以下のページで掲載しております。 「トップページ」→「市政・広報」→「情報公開」→「審議会等の会議」→「審議会等の会議の公開（会議開催予定）」 https://www.city.saku.nagano.jp/shisei/johokokai_hogo/shingikai_kaigi/kaiginokokai.html 総合計画審議会の部会も含め開催予定につきましては、上記ページでお知らせさせていただきます。
17	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	ホームページの読み上げ機能について、広報広聴課に要望を出したが、公表したページは読み上げてくれるが、ＰＤＦについては読み上げできない。おそらく視覚に障がいがある方には、読み上げ機能は非常に有効な手段だと思う。計画の中にも「誰一人取り残さない」とあちこちに書いてあるが、これは結構前から出ている話だと思う。	誰一人取り残さない、多くの人に見てもらうことは必要なことだと思っている。添付ファイルの読み上げについては、現状できていない状況であるため、関係課にも共有し、技術的にできるのか、費用がどれだけかかるのか等も含めて総合的に判断させていただく。	ご意見を踏まえ担当課に確認したところ、添付ファイル（ＰＤＦ等）の読み上げ対応にはシステム改修が必要であることが確認されました。 視覚に障がいがある方を含め、誰もがスムーズに情報を取得できるよう、技術的な課題や費用等も含めて総合的に検討を進めてまいります。
18	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	ＤＸ推進計画の素案について、今年の２月にパブリックコメントがあったが、意見募集を終了しましたのままとなっている。	担当課に伝える。	担当課に共有し、佐久市ホームページの以下ページの更新を行い、第二次佐久市ＤＸ推進計画（素案）に対する意見等の結果を公表いたしました。 「トップページ」→「市政・広報」→「市民協働」→「意見公募（パブリックコメント）」→「意見公募手続の実施状況」→「令和７年度実施状況」 https://www.city.saku.nagano.jp/shisei/shisei_sanka/pabu_come/tetsuzukijisshijokyo/r7jisshijokyo.htmll
19	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	部署間の情報共有や情報収集の方法など、縦割りの問題を解消することはぜひやっていただきたい。	ご意見として賜る。	施策「行財政経営」及び「高度情報通信ネットワーク」におきまして、グループウェアなどの活用による情報共有やデジタル技術を活用した業務の見直し（BPR）を掲げているほか、全庁横断的に取り組む「4つの重点プロジェクト」を設定し、縦割りを排した連携体制のもとで施策を推進してまいります。

「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　提出された意見とそれに対する市の考え方

●第三次佐久市総合計画（素案）について

No.	日付	会場	意見	当日の回答	反映・対応状況
20	9/30(水)	駒の里ふれあいセンター	パブリックコメントにおいて、「電話等による口頭でのご意見は受け付けない」とされています。窓口等で職員が口頭意見を聞き取ってメモを作成することは困難であり、文書での提出を原則とすること自体は当然のことと理解している。 一方で、文字を書くことが難しい方など、言葉でしか意見を伝えられない方もいる。そうした方々が身近な人に「代筆」を頼むといった負担をかけずに意見を出せるよう、音声データ（録音データ）での提出であれば受け付ける仕組みをぜひ追加していただきたいと考えている。	ご意見として賜る。	施策「市民協働・参加」の中で、意見の聴取に当たり、デジタルツールの活用と直接聴取の手法を効果的に組み合わせ、「多様な世代が自らのライフスタイルに合わせて市政に参画できる環境の拡充」や「幅広く意見を提出しやすい環境の充実」を掲げており、今後のパブリックコメント等の意見公募手法の検討に当たっても参考とさせていただきます。
21	10/1(木)	あいとぴあ臼田	人口減少で、年齢別の予測はしているか。高齢者人口が下がってきている地域があると聞いていて、まちづくりも少し変わってくると思っている。その辺が10年のまちづくりの中で、3,700人の人口減少や人口流出を抑えるに当たって予測があるのか。	昨年度に人口ビジョンを改訂し、長期的な人口推計をしている中で、年齢別など細かい推計をしている。その人口ビジョンを基に、国立社会保障・人口問題研究所の推計よりも減少のスピードを抑え、令和18年には96,000人を目標としている。 佐久市については、平成23年以降、社会増が続いている特徴がある。しかしながら、自然減の方が大きいため、人口全体とすると減少していく傾向ではある。社会増は大きな強みとして、Ｒ６・Ｒ７については県内で一番社会増が多くなっている。そういった特徴を生かしながら、多くの人に選んでいただき、人口減少のスピードを抑え、96,000人という目標に向け、様々な施策に取り組んでいきたいと考えている。	当日の回答に補足いたしますと、今後のまちづくりを進めるに当たり、市全体の年齢別の人口推計はもちろんのこと、「令和７年度改訂版佐久市人口ビジョン」において市内７地域（浅間、野沢、中込、東、臼田、浅科、望月）ごとの将来人口推計を実施し、年齢別の推移を分析しております。 ご指摘の高齢者人口の減少につきましては、推計においてもその傾向が確認されています。市全体としては人口減少が進む中で、老年人口（65歳以上）は当面増加傾向にあるものの、地域によって時期は異なりますが、いずれ減少に転じると推計しています。例えば、望月地域や臼田地域では令和７年（2025年）頃から、野沢地域や中込地域などでは令和27年（2045年）頃から老年人口が減少に転じる見込みです。 こうした地域ごとに異なる人口構造の変化や、将来展望として掲げた約3,700人の人口減少の抑止するという目標に対応するため、市ではこれまで「まち・ひと・しごと創生総合戦略」などを策定し、対策を講じてまいりました。今回の第三次佐久市総合計画においては、この総合戦略を計画に包含し、重点プロジェクトとして位置付けております。令和７年度改訂版佐久市人口ビジョンにおいて推計される地域ごとの人口減少や年齢構造の変化に対し、重点プロジェクト（総合戦略）を軸として、特定の分野にとどまらず全庁的・横断的に施策を展開し、持続可能なまちづくりに力強く取り組んでまいります。
22	10/1(木)	あいとぴあ臼田	地域で差があると思うが、どう捉えているか。	年齢別と同様に地域別の推計もしている中で、人口の社会増という部分では佐久平駅周辺が人口増の大きな受け皿になっている。佐久平駅周辺を含む浅間地域では増加傾向である。一方で合併前の旧町村部については、減少傾向となっている。佐久市全体として、佐久平駅周辺の人口増による活力を周辺部にも広げていけるよう様々な施策に取り組んでいきたいと考えている。	重点プロジェクトⅠ「まち」の中で、「市街地や中心拠点では、地域の特徴を生かしながら、まちの活力を生み出す都市機能の適正誘導と整備を進めるとともに、中山間地域においても、地域の特徴を生かした活力の創出と地域課題の解決、医療体制の確保などに取り組み、誰もが安心して暮らせる生活環境の維持・向上を図ります。」と掲げております。 また、施策「土地利用」の中で、「それぞれの地域拠点の強みや個性を生かし、その特徴を磨き上げる、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりにつながる土地利用を推進します。」と掲げております。
23	10/1(木)	あいとぴあ臼田	総合計画で企画課から説明があったが、これが各課に下りていくということか。	総合計画が市の最上位計画であり、全職員に共有している。総合計画においても、個別の分野の方向性や主な取組を記載しているが、より具体的な内容については、各分野においてそれぞれの担当課が個別の計画を策定し、実行していく体制となっている。	総合計画を市の最上位計画として位置付け、計画に掲げた方針に基づき、各担当課において個別計画や実施計画を策定・実行することで、全庁一丸となって施策を推進してまいります。

「第三次佐久市総合計画素案」及び「第三次国土利用計画（佐久市計画）素案」に係る住民説明会　提出された意見とそれに対する市の考え方

●第三次佐久市総合計画（素案）について

No.	日付	会場	意見	当日の回答	反映・対応状況
24	10/1(木)	あいとぴあ臼田	もともと地域に住んでいる住民と移住者の交流をどうやって生み出すか、多様性といったところをどうやって事業として行えるかがすごく大事だと思っている。高齢化が進んで、地域で切り盛りしていた方が亡くなったときに、その人が行っていた事業がなくなることが、その地域の歴史・資源をどこかで失ってしまうこともあると思う。教育移住で来ている方々は、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に来ていない方が多くて、そこが健康長寿・佐久のブランディングをしていくときに、教育移住の方と地域のおじいちゃん・おばあちゃんと触れ合う機会があると、そこでこどもが佐久に来て初めて、なんで佐久のおじいちゃん・おばあちゃんはこんなに元気なのと聞かれたときに実はこういう理由があってというところが交わっていくと、より強固な佐久のブランドにつながると思う。	移住者の方と地域の皆さんをつなぐことは、市としても課題と考えている。具体的な取組の例として、今年度、地域おこし協力隊の制度を活用し、主に臼田地域を活動エリアとして、移住者の方と地域の皆さんをつなぐことや、移住者の皆さんに地域の担い手になってもらえるような仕組みを構築することなどをミッションとした隊員を１名導入している。 ご意見については、今後具体的な取組を検討していく際の参考とさせていただく。	重点プロジェクトⅢ「ひと（社会動態）」の中で、「多様な人材の交差・循環や移住者と既存の地域住民との交流の推進などにより、外からの新しい視点と地域の内なる活力が混ざり合い、活気があり、選ばれる地域づくりを進めます。」と掲げております。
25	10/1(木)	あいとぴあ臼田	ヘルスケア産業に興味がある。佐久のポールウォーキングや健康食、夏の時期にメンタルを崩された方が１週間佐久に滞在することで少し元気になって帰れるとか、そういう施策にできると良いと思っている。 そういう取組を行うに当たり、プロポーザルを出す際には、地元の企業がエントリーできるように、知らないうちに県外企業が取ってしまうと、モチベーションが下がることにもつながるので検討いただきたい。	ヘルスケア関連産業の部分では、佐久市の特徴として医療機関が充実している素地がある中で、それを産業の方にもつなげていく取組を進めていきたいと思っている。 いただいたご意見も参考に具体的な取組を検討していく。	施策「工業」の中で、「健康長寿などの地域の特徴を生かしたヘルスケア関連産業などについて、新製品の開発などによる工業振興を図るため、製品の試作開発から市場ニーズの分析、商品化、販売促進まで、産学官による継続的な伴走支援を実施します。」と掲げております。 また、施策「行財政経営」の中で、「地元企業の育成や地域経済の活性化を図るため、地元企業優先発注等に係る実施方針に基づき、地元企業への優先発注や市内産品の優先活用を推進します。」と掲げております。

●第三次国土利用計画（佐久市計画）（素案）について

No.	日付	会場	質問・意見	当日の回答	反映・対応状況
1	9/26(土)	浅間会館	空き家はどのくらいあるのか。空き家が増えていると思うが、どうやって地域を維持していくのか。農地も集約するなどしないと、農業をやる人が減っている。そういったことも視野に施策を展開していかないといけないのではないか。	農地は、宅地になる以上に離農等で荒廃農地になってしまい、「その他」の土地（区分）となって減っていってしまう状況である。計画の中では、農地の集約化等について、優良農地の確保、農業振興として記載しているので、着実に実行していかなければいけないと考えている。 また、市では、約９％くらいが空き家であるため、市街地において、空き家や低未利用地を活用していくことを盛り込んでいる。	―